

(19) サービス業（Ⅱ. クレジットカード業、割賦金融業）

13/12 14/13 ◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0～▲10%  
: 天気図マーク: ○ 伸び率0～10% ● 伸び率▲10%以下

1. 企業経営動向

- (1) 平成13年度（実績）の取扱高は、個人消費の低調な推移により、収益の中心となるショッピングクレジットの取扱いが依然として落ち込んでいるものの、キャッシング（カードローン）を含むカード業務の取扱いが好調であったこと、また、提携カードによる新規カード会員の獲得、新規分野での加盟店の開拓やシステムの構築等といった営業基盤の拡大等があったことから対前年度比でプラスとなった。
- (2) 収益面では、景気低迷による消費マインドの低下、自己破産の大幅な増加による貸倒コストの増加、カード犯罪の多発あるいは低金利及び競争激化による手数料率の低下という従来からの懸念材料に加え、異業種・外資の新規参入により一層競争激化の傾向がみられたものの、不要コストの削減等の企業体質改善が順調に行われた結果、対前年度比でプラスとなった。
- (3) 今後の経営戦略としては、本来業務であるショッピングクレジット及びクレジットカード部門においては、不採算店舗の閉鎖や不採算部門の縮小あるいは閉鎖等といった組織のスリム化による一層のコスト削減を図るとともに、決済手段としてのクレジットカード利用促進を図るための新規分野の開拓等を行っていく。更に、提携カード等による新規カード会員の獲得、カードキャッシングの拡大、カード犯罪に対応するためのリスクマネジメントの強化、拡大するインターネットマーケットへの対応等のクレジット周辺業務によるコストパフォーマンスの向上等に努め、経営体質の強化を図っていく方針である。

## 2. 設備投資動向

### (1) これまでの設備投資の推移

既存設備の更新、維持・補修といった従来の投資に加え、ＩＣカード・電子マネーの実用化、インターネット関連事業など情報化関連の設備投資が増えている。

### (2) 平成１４年度の設備投資計画

#### ・ 目的別設備投資の特徴

投資マインドに特に変化はない。導入が始まっているＩＣカード関連の設備投資が本格的に進む見込み。

#### ・ 情報化投資の動向

電子商取引等の情報関連業務への投資マインドが高まっている。

## 3. 長期資金調達・運用動向

### (1) 長期資金運用動向

資金使途の太宗はクレジット与信用の運転資金であり大きな変化はない。

### (2) 長期資金調達動向

金融機関からの借入が主体であるが、資金の安定供給の一環として、資金調達の多様化を図るべく、債権の流動化による調達を実施している事業者が多数あり、今後これらによる直接金融の比率が増える見込み。

(グラフ１：設備投資の前年度比の推移)

